



子ども
記者

がお邪魔します

仕事場 拝見

vol.
01

オマール・ポラスさん

コロンビア出身。今はスイスの劇場の芸術監督です。

「演劇は顕微鏡。演劇は望遠鏡」

by オマール・ポラス

演劇ってどんなもの？ 舞台上で何が起るの？

そんな疑問を持った子どもたちが初めて観劇を体験。

知らない世界を見て、聞いて、

感じたことをもとに取材しました。

子ども記者にチャレンジしてくれたのは、

ふみなさん(中1)、ももかさん(小6)、ゆらさん(小6)の3人。

SPACが主催する「ふじのくににせかい演劇祭」

開催中の5月3日、静岡芸術劇場で

「私のコロンビヌ」を鑑賞し、この作品の

演出・舞台芸術・衣装・出演を一人で担う

オマール・ポラスさんにインタビューしました。



ふみなさん／光や香り、砂を使って、今まで見たことがない演劇でドキドキしました。私はあの香りで雰囲気が出たと思いました。何の香りですか？



ポラスさん／とても素敵な質問ですね。あれは作品が始まる前に「パロサント」というコロンビアの香木をたいたもの。よく儀式で使います。香りはふみなさんの頭の中にも存在します。心が開かれていると、香りや風なども感じ取ることができるんです。

ふ／普段聞かない言葉がたくさん使われていましたが、演劇で使う言葉はどんな風に考えていますか？

ポ／今回のテキスト(台本)は詩人・作家と一緒に作りました。私がフランス語で話した内容をもとにその人が文章を作り、コロンビアで使われるスペイン語も加えています。登場人物の名前にもちゃんと意味があって、その人の一生のストーリーを彷彿(ほうふつ)させる名前になっているんですよ。今回の作品はフランス語ですが、フランス語はとってもきれいな言葉です。もちろん日本語も美しい、音楽的な響きを持っていますね。

ももかさん／一人で何役も演じていたので、とても驚きました。練習はどれくらいしますか？

ポ／何役も演じるので、今どこで誰が何をしている場面なのか、覚えるのに時間がかかりました。体力も使うんですよ。この作品には40年の歳月をかけました。私が演劇をしてきた年月全てが注がれているという意味です。稽古(けいこ)は1日10時間でもできます。新しい作品に取り組



む時は早く起きて遅く寝る、それくらい時間をかけて作り上げます。

も／演劇を始めたきっかけは何ですか？

ポ／あなたは何歳ですか？ 11歳？ 私も10歳の頃、演劇に出会いました。舞台の上なら自分ももっと自由に、何もかもが可能になると感じた、だから舞台の側に行きたいと思ったのです。「演劇は顕微鏡。演劇は望遠鏡」。作中のせりふにあるように、演劇は小さな感動や心の動きも、大きな宇宙を見ることもできるんです。

ゆらさん／演出や衣装、お芝居も一人でやっていますすごいと思いました。演劇で大切にしていることは何ですか？

ポ／全てが大事です。聞こえること、見えるもの、感じるもの、言っていること。そして人間も。全てが秩序立っていることが求められます。無秩序を作るときでさえ秩序立っていないといけないんです。例えば、舞台上に順番に黄色、ブルー、赤の砂が落ちてきたでしょう。あれはコロンビアの国旗を表しています。また、香りも人々を引きつけ、エネル



「私のコロンビヌ」…

コロンビアの貧しい農家に生まれ、無一文でフランスに渡って演劇の道を進むオマールさんの人生を描いた作品。オマールさんが全ての役を一人で演じます。



静岡芸術劇場での上演 撮影:猪熊康夫

ギーをうまくまとめるために使う魔法のようなもの。楽しいことを分かち合う準備が必要なんです。人生も同じですね。

ゆ／私は静岡みかんが好きですが、ポラスさんが好きな静岡の食べ物は何ですか？

ポ／揚げ出し豆腐です！ 日本は素晴らしい国ですね。皆さん、ぜひ国を大切にしてください。そして自然を好きになってください。



SPACから子どもたちへ

やわらかな感性を持つ子ども時代に舞台芸術に触れてほしい。知らない世界を見て想像力を膨らませてほしい。そんな思いからSPACでは「中高生鑑賞事業公演」をはじめ、子どもたちを対象としたプログラムやワークショップを実施しています。

その時は「よく分からない」と感じるかもしれませんが、でもいつか舞台を見た体験が、聞いた言葉が、音楽が、記憶のどこかに小さな輝きとして残り、心を豊かにしてくれると考えています。ぜひ、親子で気軽に劇場に足を運んでみてください。



いい香りの木や葉、マラカスを見せてくれました。どれもポラスさんの舞台に欠かせないアイテムで、舞台でも使われていました。